

# 熊本市上下水道料徴収ピンチ

2011.09.22 09:11 日刊紙

熊本市上下水道局の新料金管理システムの開発が遅れている問題に絡み、開会中の市議会で、後手後手に回っている市側の対応に厳しい意見が相次いでいる。同局は開発会社との契約を23カ月延ばすことを決めたが、現行システムを管理している会社が同局への不信感から契約継続に難色。12月以降、料金徴収の事務に支障を来す可能性も出てきている。

同局では上下水道の新料金システム開発のため、入札を経て2009年8月に日立情報システムズ（東京）と約4億5千万円で契約を締結。当初は今年12月までに稼働させる予定だったが、機能面などで市と会社側の見解のずれが浮上し、大幅に遅れることが判明した。

同局は同社との契約解除も検討したが、会社側が1億5千万円を上限に遅延に伴う費用を負担するなどとしたため、13年11月ごろには稼働が見込めると判断。今月9日の市議会一般質問で、花田豊・上下水道事業管理者は「契約は解除しない」と明言した。

しかし、現行システムを担う日本電気（NEC）系の「KIS」（熊本市）は、8月の同局からの契約継続の申し出に対し、今月6日に「入札をやり直さない限り、承服しかねる」と返答。同社は取材に「契約不履行が許されるなら、公平なやり取り（入札）はできない。なぜ市は企業を擁護するのか」と批判する。

開発遅延の事情を知ったKISが昨年末に契約内容について同局に確認した際、今年11月末までの契約終了を予定していると回答。一方、日立情報システムズから開発遅れの見通しは3月に同局に示されたが、同社との契約関係が決まらず、KISへの正式な依頼もないままだったという。

この問題は、市議会予算決算委員会の環境水道分科会で取り上げられ、花田管理者は20日、KISとの契約継続の交渉が難航していることについて「（認識が）甘かった」と陳謝。市議からは「KIS側は、業務として当たり前のことをしている。（もっと早い段階で開発の遅れを把握するなど）局が進捗（しん・ちよく）管理をしておくべきだった」との非難が上がった。

9月定例会には、契約継続を前提に関連予算が提出されているが、「（前提が崩れているのに）議論する意味はあるのか」などの声も。20、21日の分科会では結論が出ず、22日も審議されることになった。

KIS側との交渉が決裂すれば、同局は12月から手作業での料金算定などを迫られることもあり得る。21日には西島喜義副市長が、KISの親会社のNEC九州支社長と面会して理解を求めたが、見通しは立っていない。